

第9章 総括

今回行ったニーズ調査により以下の特徴が見て取れます。

1 ニーズ調査からみる加西市の特徴

- ・核家族及び複合家族共に、日常的もしくは用事の際に祖父母等親族に子どもを預かってもらえる環境にある。
- ・就学前児童より就学児童を持つ母親の方が、就労している割合が高い。(子どもが手離れしたためか)
- ・現在就労していない母親の就労希望が高い。
- ・居住形態は持ち家(一戸建て)が多い。
- ・全体で見ると、子育て環境の満足度は高くないが、居住年数が長いほど、子育て環境の満足度が高い傾向にある。
- ・子育ての不安や負担感は経済的理由と子どもに関する犯罪や事故の増加が主な原因である。
- ・子どもと一緒に時間がとれないのは、父親、母親共に「仕事が忙しい」が原因である。
- ・育児休業制度を7割以上が利用していない。
⇒仕事と子育ての両立をはかるため職場において必要なことでは、「有給休暇の取得しやすい職場環境づくり」や「育児休業・介護休業の取得に関する上司や同僚の理解」が高い割合を占めている。
- ・今後、必要だと思う取り組みは「企業誘致等、職場の確保」である。
- ・一般住民のワークライフバランスに対する認知度が低い。

2 基本方向性についての提案

ニーズ結果から、祖父母同居もしくは祖父母近居の世帯が多い、緊急時や用事等のある際は親族に預かってもらえる状況にある方が多い、また保育サービスを利用していない理由等からも、今後についても現状の保育サービスで対応できるのではないかと考えられます。

虐待についてみると「よくある」、「時々ある」の割合は全体の30%未満となっていますが、家族構成別に見てみると、複合家族より核家族の方が多く、また就学前児童の家庭で多くなっていることから、家族構成にあった支援及び地域での見守り体制の確保等が重要と考えられます。

また、ワークライフバランスについての認知度は低く、特に 20 歳未満及び 20 歳代では、ほとんどの方が言葉を聞いたことが無い状態にあることから、周知に向けた取り組み及び、企業に対する啓発活動も重要と思われれます。

さらに、居住年数が長いほど子育てしやすい環境にある、若しくは住みつづけたいと思う割合が多くなっていることから、居住年数が短い方への情報提供や転入時の対応方法など、情報発信等の見直しが必要と思われれます。

加西市への定住意向、保育サービス・子育て環境の満足度等を家族構成別に見た結果、同居・近居の割合が高い加西市では、同居・近居を支援・推進する施策を充実する事で、定住促進・子育て環境の満足度アップに繋がるのではないかとと思われれます。